

『国内外の圧力容器規格の動向と解説』

圧力容器関連の規格は圧力容器の製造に不可欠なばかりでなく、圧力容器の機能と安全性を担保するためにも必要であり、各国はその整備に力を注いでいます。昨今、この圧力容器関連の規格標準は国際整合化と、国内では規制緩和の流れを受けて大きな動きが続いております。

本セミナーは、この国内外の圧力容器関連規格の最近の動向と、主要な規格に関する内容の解説に関するセミナーです。今回は国内外規格の最近の動向のみではなく、2007年に大きく改定されたASME BPVC Section VIII Div. 2の全容、実際の設計、解析方法、等について詳しい解説を行います。また当協会の圧力容器規格委員会にて作成、整備中の規格基準(HPIS)を紹介し、関連の最新技術についても解説致します。

関係の方々におかれましては、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

開催日 平成25年3月5日(火)～6日(水)

会場 自動車会館 2階 大会議室 地図 <http://www.jidosya-kaikan.com/map.html>

参加費 会員 35,000円* 非会員 40,000円

※会員価格は、当協会の個人会員、当協会の団体会員

http://www.hpj.org/about?action=common_download_main&upload_id=204

及び本セミナーの協賛団体に、参加者或いは参加者の所属会社が会員の場合適用されます。

協賛団体 高圧ガス保安協会、(一社)日本非破壊検査協会、(一社)日本機械学会、(公社)石油学会、(公社)化学工学会、石油連盟、(一社)日本鉄鋼協会、日本高圧力学会、(社)日本溶接協会、特定非営利活動法人安全工学会、石油化学工業協会、(社)日本原子力学会、(社)溶接学会、危険物保安技術協会、(公社)腐食防食協会、(公社)日本材料学会、(財)溶接接合工学振興会、(一財)エンジニアリング協会、(一社)日本ガス協会 (順不同)

■お申し込み方法■

- ① 当協会ホームページ <http://www.hpj.org/event>、又は参加申込書に必要事項をご記入の上 E-mail、FAX により、**3月1日(金)**までにお申し込みください。
- ② 参加申込書を確認後、請求書をお送りします。参加費は開催日前日までに、指定の郵便口座、又は銀行口座へお振り込みください。参加費のお振り込み後の、返却には応じられませんので、ご了承ください。
- ③ 受講券は、開催日の2週間前にメールにて、テキストはセミナー当日受付にてお渡しします。
- ④ お問い合わせ先 (一社)日本高圧力技術協会 セミナー事務局 担当：田中夕香子

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-11-5階

TEL/FAX 03-3255-3486/3488 E-mail tanaka@hpj.org URL <http://www.hpj.org/>

HPI 技術セミナー 国内外の圧力容器規格の動向と解説 参加申込書	
フリガナ 氏名	勤務先 所属
勤務先住所 〒	TEL FAX
E-mail アドレス(受講券を送信致しますので、正確にご記入ください)	
参加費 会 員：□35,000円(会員の種別に✓を入れて下さい) □団体会員、□個人会員、□協賛団体会員 非会員：□40,000円	振込 予定日 /
備考	

当協会ではお客様の個人情報の取扱いについては、プライバシーポリシーを定め適切に管理を行います。

詳細についてはホームページ(<http://www.hpj.org/about/>)をご覧ください。

裏面へ続く→

■■プログラム■■ ※各講演終了後、10分程度の休憩がございます。

3月5日(火)

10:00 ～ 11:00	① 国内外圧力容器規格について 規格は、圧力容器等の材料、設計、製作及び検査において最低限満足しなければならない基準を与えているが、国内の JIS 規格、欧米の ASME 規格及び EN 規格等について、その背景、概要、動向及び関連性を紹介するとともに、法規制との関係、国際圧力容器規格との関係等を紹介する。	磯村 俊雄(高圧ガス保安協会)
11:10 ～ 12:10	② HPIS 規格の動向と解説 —HPIS C104/C105 圧力容器及びボイラ用材料の許容引張応力表の内容と改定動向— HPI 規格(HPIS)の材料の許容引張応力表 C104(引張強さに対する安全係数4)と C105(同 3.5)の紹介とこれらと JIS B8265(圧力容器の構造 — 一般事項)および JIS B8267(圧力容器の設計)の許容引張応力表との関係について述べる。また、利用者から要望の多い新たな材料に対する許容応力の設定に対する考え方とその現状、さらに今後の動向などを説明する。	石毛 健吾(IHI)
12:10 ~13:00 昼食休憩		
13:00 ～ 14:30	③ HPIS 規格の動向と解説 —ASME Sec. VIII Div.3 と HPIS C106 の高圧容器規格の内容と改定動向— 圧力容器の超高压化など設計条件の苛酷化に伴い、合理的な設計、製作が可能な新しい高圧容器の設計規格の必要性が叫ばれ、2005年に Div.3 をベースとした HPIS C 106 の初版を発行した。その後、Div.3 の改定動向を見ながら、Div.3 改定の先取りや日本からの提案も取り入れた見直しを行ってきており、ここではこの改定内容を中心に紹介する。	吉田 敏雄(三井造船)
14:40 ～ 15:40	④ 圧力設備の維持規格の動向(ASME-PCC,API 関連) 圧力設備の経年劣化・損傷に対応して安全運転を継続させるために、維持基準の規格化が積極的に進められている。ここでは ASME-PCC、API-CRE 委員会における圧力設備の FFS、補修、安全運転などの規格作成の動向、概要を紹介する。	田原 隆康(石油連盟)

3月6日(水)

10:00 ～ 11:30	⑤ ASME Sec.VIII Div.2 の動向と解説 (1) Div.2 の全容及び Sec. VIII Div.1 と Div.2 の統合の動向 2007年版で大幅改定された ASME Sec. VIII Div.2 の内容について解説するとともに、最近の動向についても説明する。特に Div.1 と Div.2 の統合やその他の BPV-VIII Committee で現在検討中の事項について説明する。	寺田 進(神戸製鋼)
11:40 ～ 13:10	(2) 解析による疲労設計 —ASME Sec.VIII Div2 および EN13445 による疲労解析— ASME Sec.VIII Div2 は 2007 年に大幅に改定され、疲労解析方法は従来の方法に二つの新しい手法が追加され、三つの方法から選択することが可能になった。また、ヨーロッパ規格である EN-13445 では ASME とは全く異なる手法を用いる疲労解析法が規定されている。今回は具体的な設計事例を取り上げ、それぞれの設計手法の特徴とそれらの解析結果の相違について解説を行う。	李 日星 (日揮)
13:10 ~14:00 昼食休憩		
14:00 ～ 15:00	(3) RT に代わる UT による非破壊検査規格の解説—Code Case 2235 及び HPIS E101 について— 近年 TOFD 法などの超音波探傷試験の進歩により、ASME では Code Case2235 に代表される規格が整備され、従来の放射線透過試験に代えて超音波探傷試験による非破壊検査が適用されるようになった。日本においても同検査が適用できるように、現場での知見も取り入れた新しい規格 HPIS E101 を制定した。ここではこの Code Case 2235 及び新しい HPIS E101 の内容について解説する。	酒井健二(東洋エンジニアリング)
15:10 ～ 16:40	(4) 2.25Cr-1Mo-0.25V 鋼リアクターの Code Case 2605 によるクリープ疲労設計及び簡易化の提案 従来 ASME Sec.VIII Div2 で設計されていた設計温度が 454℃以上の 2.25Cr-1Mo-0.25V 鋼製石油脱硫用リアクターは 2007 年版では 454℃以上では許容応力がクリープ強度で決まり、疲労解析免除規定適用や疲労解析ができないため、Code Case 2605 が発行された。この Code Case の内容及び適用例を示すとともに、PVP2010 で著者が提案した Code Case の簡易化の提案についても解説する。	寺田 進(神戸製鋼所)